

「抗癌剤の選び方・使い方」第2版

帝京大学教授・内科 古 江 尚 訳
大阪大学教授・微研外科 田 口 鐵 男

癌研究会付属病院院長
齊 藤 達 雄

古江尚，田口鐵男の両教授の共著による「抗癌剤の選び方・使い方」第2版が刊行された。今から6年半前，この本の初版が刊行されたとき，乞われて書評を書いた覚えがあるが，その後，2刷，3刷と増刷が行われ，本書に対する需要の大なることを知ってはいたが，この度，一部改訂のうえ，第2版が出版されたとき，今更ながら，本書の評価が世に高いことを認識した。

もともと抗癌剤の数が，かなりあ

って，その投与法もいろいろ開発されておる現時点において，診療の第一線において活躍される臨床家たちが，それらについての知識と選択に戸惑われることは少ないことではないであろう。大変おこがましいことではあるが，この道の研究を専門とする筆者自身がしばしばそのような場合に遭遇して，急いで手許の成書をあれこれ紐解かねばならないことも度々である。

このような意味で，両先生の共著

で刊行されたこの本の意義が極めて高いことは言うまでもない。古江先生，田口先生が，この方面の代表的権威として，縦横無尽に活躍しておられることは，今更，ここに紹介する必要はないであろう。しかも，この両教授が対談の形で，本来いささか堅苦しくあるべき内容を極めて明快に，スムーズに解説されているところに，この本が，他に類をみないユニークな好著と言われる所以があるであろう。しかも，今回は，数か所に改訂を加えて，第2版として世に問われている。

是非，この書を座右に備えられて，日常の診療における好伴侶たらしめられるよう，敢えて，ここにご推薦いたす次第である。

A5判 238頁 1987年 定価2,800円 送料300円 医学書院 刊